

ことは

8億8,191万7,000円で

こんな仕事をします

四月から始まる昭和四十二年の市役所の予算がまきました。新年度は、より豊かな市民生活、住みよい清潔な観光都市づくりのため、生活環境の整備、教育の充実、産業の振興、観光施設の整備を重点として、市民福祉の向上をはかり、庁内事務の合理化をはかって迅速な行政運営を目標にしています。

とくに、ことしはこれまで以上の投資的業務がおりこまれるなど、総額八億八、一九一七、〇〇〇円にのぼる予算で仕事が行なわれます。私たちの生活に直接ひびく新年度予算はどうなっているのでしょうか。ことし行なわれる仕事のおもなものをお知らせしましょう。

土木・教育が重点の事業型予算

予算規模
 総務・教育・土木・衛生、商工・民生・消防・議会などの一般会計予算は、前年度当初予算に比べて二八・二%増の六億三、三五四万八、〇〇〇円となっています。また、上水道、文化観光施設整備、国民健康保険、農業共済、霧降高原リフト事業などの特別会計予算は二億三、一七〇万七、〇〇〇円、その他、小来川財産区会計予算が一、六六六万二、〇〇〇円で、これらを合わせると新年度の予算規模は八億八、一九一七、〇〇〇円にのぼります。

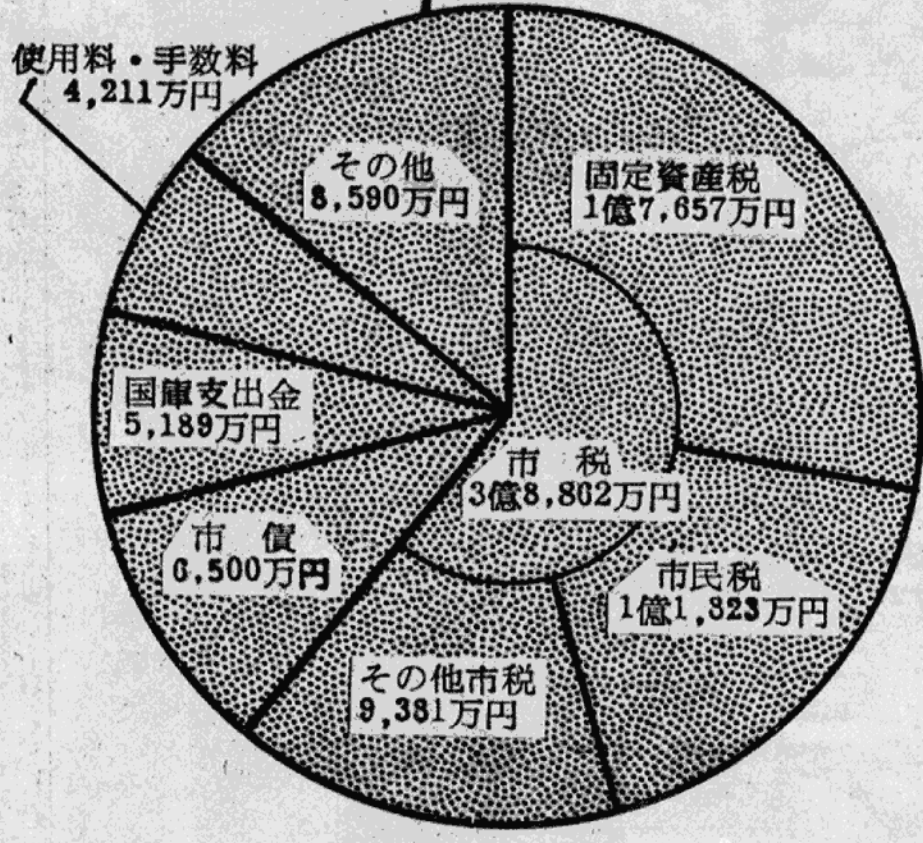
できるだけ消費的経費を節約し、その反面、投資的経費については年間とおしうる収入の範囲内で最大限に計上(前年度より一億五、〇〇〇万円増の二億七、〇〇〇万円計上)されています。また、新年度予算の大筋がほぼかたまつた時期に、不測の事態とはいえ中宮祠小中学校の災害が生じたため、この再建費が計上されていますが、このために他の事業(道路整備など)が圧縮されることのないよう予算の編成が行なわれています。

その他、新年度予算のうちがうところは、特別会計霧降高原リフト事業を今年度から公営企業法の中の財務規定などの一部を適用して、事業の合理化をはかることです。つまり、リフト会計は損益の実態がひとめでわかる処理方法をとり、いれ、債権、債務の発生主義に基づく計理の

方法が採用されました。

歳入

諸収入	2,570万円
県支出金	1,373万円
地方交付税	1,100万円
財産収入	1,078万円
寄付金	770万円
繰越金	700万円
その他	983万円



市道を積極的に整備 生活環境関係で一億円

道路、住宅など生活環境面に投資する予算は一億円、皆さん方からとくに要望の多い市道の整備を重点に事業をすすめます。

○舗装道の新設は十二路線で、約四キロメートルを三、二八二万円(うち観光税二、一七二万円)で行ないます。

(舗装予定路線)
 ※安良沢社宅線(一号線)
 ※細尾社宅線(国道五号)
 ※下鉢石地内(電通協新谷)
 ※清滝地内(清滝支所前通り)

○拡幅などの道路改良は、久次良安良沢小線など六路線を七、七六万円で行ないます。

※山内地内(三延坂、東観荘)
 ※武徳殿下
 ※安山町地内(ドライフィン脇)
 ※四軒町袋町線
 ※大工町地内(安川橋、江田民宅前)
 ※上鉢石町稲荷町線(日光橋、虚空蔵尊前)
 ※中鉢石町地内(市役所前)
 ※稲荷川所野線